

# ガス水道本支管布設工事特記仕様書

## 1. 目的

この特記仕様書は、小千谷市ガス水道局が発注するガス水道本支管布設工事に適用し、工事の品質と安全確保を進めることを目的とする。

本工事の施工に当たっては、関係する法令、条例及び規則を遵守しなければならない。

## 2. 適用範囲

この特記仕様書に定めのないものは、次に掲げる工事標準仕様書等の最新版に従うものとする。

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| (1) 工事仕様総括及び施工条件総括表            | 小千谷市ガス水道局(入札図書に添付) |
| (2) 新潟県土木工事標準仕様書               | 新潟県土木部             |
| (3) 新潟県道路占用基準                  | 新潟県土木部             |
| (4) 小千谷市道路占用工事等共通仕様書           | 小千谷市建設課※           |
| (5) 水道工事標準仕様書(土木工事編)           | (公社)日本水道協会         |
| (6) 本支管指針(工事編)                 | (一社)日本ガス協会         |
| (7) 供給管・内管指針(中圧管設計・工事編)        | (一社)日本ガス協会         |
| (8) 水道配水用ポリエチレン管及び管継手(施工マニュアル) | 配水用ポリエチレンパイプシステム協会 |
| (9) ガス用ポリエチレン管接合作業及び教育・訓練マニュアル | (一社)日本ガス協会         |
| (10) NS形ダクタイル鋳鉄管接合要領           | (一社)日本ダクタイル鉄管協会    |
| (11) NS形管路の施工監理について            | (一社)日本ダクタイル鉄管協会    |
| (12) 小千谷市ガス用ポリエチレン管工事施工要領      | 小千谷市ガス水道局※         |
| (13) ガス需要家工事標準仕様書              | 小千谷市ガス水道局※         |
| (14) 水道需要家工事標準仕様書              | 小千谷市ガス水道局※         |
| (15) ダクタイル鋳鉄管(GMⅡ形)施工要領        | 小千谷市ガス水道局※         |
| (16) GX形ダクタイル鋳鉄管接合要領書          | (一社)日本ダクタイル鉄管協会    |

※は要請があれば提供する。

## 3. 工事仕様の優先順序

- (1) 現場説明書及び質問回答書
- (2) 特記仕様書
- (3) 工事仕様総括及び施工条件総括表  
(建設副産物特記仕様書、再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン特記仕様書)
- (4) 公的な仕様書
- (5) 施工要領・指針・マニュアル
- (6) 設計図書

## 4. 疑義及び変更

- (1) 設計図書に明記されていない事項又は疑義が生じた場合で、設計図書の変更・追加等が必要な場合は監督職員と請負者が協議すること。結果の措置は工事約款の規定によるものとする。
- (2) 請負者の原因による設計変更については、監督職員の承諾を受け設計変更を行うものとするが、その費用は請負者の負担とする。
- (3) 本工事完成後であっても竣工図書等発注者が必要と認め請求したものは、請負者の負担において提出すること。

## 5. 工事写真

- (1) (公社)日本水道協会発行の水道工事標準仕様書(土木工事編)中、「付2. 工事記録写真撮影要綱例」を標準とし、以下に従うものとする。
- (2) 写真は横長を標準とする。
- (3) 各工種の撮影について、管路図、構造等の概略図により、どの部分の写真であるかを説明文に記載して施工順序に従い整理すること。
- (4) 水道管及びガス管本支管の撮影
  - ① 水道管及びガス管毎に測点毎に次の測点までの全景(掘削界まで)及び管深度並びに官民境界からの距離が判別できる写真とすること。
  - ② 撮影位置は監督員から特に指示がない場合、20m毎及び異形管類を使用した箇所とする。
  - ③ 引込管布設替工事の写真は、分岐箇所の配管状況及び、引込方向の背景を入れて撮影すること。
  - ④ 黒板、定規等の内容が不明の場合は、写真に赤書きで記入し、説明を加えること。
  - ⑤ 着手前及び竣工写真は、施工箇所の全景が分かるように始点及び終点等にポールを立てて撮影すること。
  - ⑥ 使用材料の写真については、数量、寸法等が分かるようにすること。

- ⑦ 写真撮影点は、特に指定がない場合は、測点毎に次の工種について撮影すること。
- ア 着手前
  - イ 舗装切断(当初)
  - ウ 既設舗装路盤剥取状況
  - エ 既設舗装路盤厚
  - オ 掘削状況及び残土処理
  - カ 掘削深度及び幅員
  - キ 管理設深度
  - ク 管理設位置
  - ケ 埋戻し及び転圧  
(1層あたり20cm以下毎に検尺を行って撮影すること。)
  - コ 路盤  
(1層あたり、下層路盤工は20cm以下毎、上層路盤工は15cm以下毎に検尺を行って撮影すること。)
  - サ 仮舗装
  - シ 舗装切断(本舗装等)
  - ス 掘削(本舗装等)
  - セ 不陸整正(本舗装等)
  - ソ 切削
  - タ 本舗装
  - チ 竣工
  - ツ 仮設工事
  - テ 安全施設
  - ト 水替、土留等
  - ナ 各種試験、検査
  - ニ その他必要となるもの
- (5) 引込管布設替工事
- ① 撮影箇所が判別できるように、分岐箇所の配管状況及び、引込方向の背景を入れて撮影すること。
  - ② 黒板、定規等の内容が不明の場合は、写真に赤書きで記入し、説明を加えること。
  - ③ 主要管材料、異形管類の写真については、数量、寸法等が分かるように撮影すること。
  - ④ 写真撮影点は、4)－⑦と同等とする。
- (6) その他道路占用関係
- ① 新潟県土木工事標準仕様書「写真管理基準」に従うものとする。
    - ア 撮影箇所一覧表のとおり
    - イ 撮影箇所一覧表(品質管理)のとおり
    - ウ 撮影箇所一覧表(出来形管理)下水道編のとおり
  - ② 工事写真の提出部数は監督員の指示による。
  - ③ 工事写真は印刷物(工事写真帳)とする。
  - ④ 写真のビデオ活用は考慮しないでよい。
  - ⑤ 工事着手前・完成写真は写真帳に添付する。
  - ⑥ 道路縦断占用
    - ア 路床工の検測写真の撮影頻度は、車歩道別に各層40m毎に1回とする。ただし、延長が40m以下の工事については、起点及び終点の2箇所を撮影すること。
    - イ 下層路盤工及び上層路盤工の厚さ・幅の検測写真の撮影頻度は、各層80m毎に1回とする。
    - ウ 舗装本復旧の基礎工及び表層工の厚さ・幅の検測写真の撮影頻度は、車道歩道別に各層80m毎に1回とする。
    - エ 仮舗装時に乳剤散布状況(スプレイヤーを用いる場合は、飛散防止措置を講ずること。)の写真を撮ること。
    - オ アスファルト敷均し時の温度管理写真を付けること。
  - ⑦ 道路横断占用
    - ア 路床工の検測写真の検測写真の撮影頻度は、車道歩道別に各層箇所毎に1回とする。ただし、片側交互交通による分割施工については、路床工の完了写真のみとし、層厚管理及び各層毎の検測写真は省略してもよいが、片側車線に偏らないように調整すること。
    - イ 下層路盤工及び上層路盤工の厚さ・幅の検測写真の撮影頻度は、車道歩道別に各層箇所毎に1回とする。ただし、片側交互交通による分割施工については、下層路盤工及び上層路盤工の完了写真のみとし、厚さ・幅の検測写真は省略してもよいが、片側車線に偏らないように調整すること。
    - ウ 舗装本復旧の基礎工及び表層工の厚さ・幅の検測写真の撮影頻度は、車道歩道別に各層箇所毎に2回とする。ただし、片側交互交通による分割施工については、基礎工及び表層工の完了写真のみとし、厚さ・幅の検測写真は省略してもよいが、片側車線に偏らないように調整すること。

- エ 仮舗装時に乳剤散布状況(スプレイヤーを用いる場合は、飛散防止措置を講ずること。)の写真を撮ること。
- オ アスファルト敷均し時の温度管理写真を付けること。
- ⑧ 各層毎の検尺写真及び締固め・転圧状況写真を撮ること。
- ⑨ 品質管理状況写真
  - ア 縦断部については路床工及び下層路盤工の現場密度試験を車歩道別にそれぞれ100mに1回(1回につき3点)測定し撮影すること。
  - イ 縦断部については上層路盤工(アスファルト安定処理を除く)の現場密度試験を200mに1回(1回につき3点)測定し撮影すること。
  - ウ 縦断部については舗装本復旧の表層工の平坦性試験は1工事1回(車線毎)測定撮影すること。
  - エ 横断部の路床工・下層路盤工及び上層路盤工の締固め試験は車歩道別に1工事1回とする。
  - オ 車道横断箇所が連続し、一連区間を切削オーバーレイで復旧する場合の平坦試験は上記ウに従うものとする。

## 6. 完成図面

- (1) (公社)日本水道協会発行の水道工事標準仕様書(土木工事編)中、「付3. 工事完成図作成要綱例」を標準とし、以下に従うものとする。
- (2) 図面の大きさはJIS P 0138のA3判を標準とし、A4判サイズに片袖折を行いとじ込むこと。
- (3) 用紙は上質紙又はコピー用紙の50g/m<sup>2</sup>~110g/m<sup>2</sup>を使用すること。
- (4) 輪郭外の寸法は左20mm以上とし他3方は10mm以上とすること。
- (5) 新設水道管は青の実線で表記すること。
- (6) 新設ガス管は赤の実線で表記すること。
- (7) 図面の縮尺は以下を基準として監督員の指示に従うこと。
 

①案内図	1/2500又は1/5000
②平面図	1/500
③オフセット図	1/200
④断面図	1/50又は1/100
⑤詳細断面図(標準復旧断面図)	1/10又は1/20
⑥アクソメ図(配管詳細図)	FREE
⑦傍面図(仮復旧、本復旧)	1/100又は1/200
⑧側面図	1/100又は1/200
⑨構造図	1/20又は1/50
- (8) 側面図(アクソメ図)には本支管の工事完成数量表及び各引込管工事の工事完成数量表を記載すること。
- (9) 傍面図には連続する舗装延長及び面積計算表を記載すること。
- (10) 断面図には側溝、消雪パイプの他に他埋設配管について分かる範囲で記載すること。
- (11) 断面図には布設管センター位置の官民境界からの距離、側溝幅を記載すること。
- (12) 各図面は文字は容易に読み取れる大きさとすること。
- (13) 各種台帳については監督員と協議すること。

## 7. その他

- (1) 初めの路盤工竣工時には監督員の検査を受けること。

